



Oracle® Essbase

リリース 11.1.2.3.000

Readme

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

目的	2
このリリースでの新機能	2
インストール情報	2
サポートされているプラットフォーム	2
サポートされている言語	3
サポートされているこのリリースへのパス	3
このリリースで修正された問題	4
既知の問題	7
ドキュメントの更新事項	14
ドキュメント・フィードバック	15
アクセシビリティの考慮事項	16

目的

このドキュメントには、このリリースの Oracle Essbase に関する重要な最新情報が記載されています。Oracle Enterprise Performance Management System をインストールする前に、この Readme を十分に確認してください。

注： Oracle Essbase Spreadsheet Add-in は Essbase 11.1.2.3 リリースには含まれていません。また、Essbase 11.1.2.3 でサポートされている以前のバージョンの Spreadsheet Add-in でもありません。Oracle Hyperion Smart View for Office を使用する必要があります。

詳細は、Oracle Essbase Spreadsheet Add-in Statement of Direction [ID 1466700.1] (<https://support.oracle.com/epmos/faces/DocumentDisplay?id=1466700.1>)を参照してください。

このリリースでの新機能

Oracle Essbase New Features を参照してください。

複数の密な動的 XREF 式がある場合、@XREF 計算関数のパフォーマンスも向上します。パフォーマンスの向上は、@XREF のベクトル・モードで特に顕著です。

このリリースでのインストール、アーキテクチャおよび配置の変更に関する新機能については、Oracle Enterprise Performance Management System Readme のこのリリースでの新機能に関する項を参照してください。

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1 または 11.1.2.2 から移行する場合は、累積機能概要ツールを使用して、これらのリリースの間に追加された新機能のリストを確認してください。このツールを使用すると、現在の製品、現在のリリース・バージョンおよびターゲットの実装リリース・バージョンを識別できます。1回のクリックで、現在のリリースとターゲットのリリースの間で開発された製品機能のハイレベルの説明のカスタマイズ・セットがすばやく生成されます。このツールはこちらにあります：

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

インストール情報

EPM System 製品のインストールに関する最新情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Readme に記載されています。EPM System 製品をインストールする前に、この情報をよくお読みください。

サポートされているプラットフォーム

EPM System 製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix にスプレッドシート形式で提供されています。このマトリックスは、Oracle Technology

Network (OTN)の Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされている言語

EPM System 製品のサポートされている言語に関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の「Translation Support」タブにスプレッドシート形式で提供されています。このマトリックスは、OTN の Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされているこのリリースへのパス

EPM System は、次のリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表 1 サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース元	リリース 11.1.2.3 へ
11.1.2.x	メンテナンス・リリースをリリース 11.1.2.3 へ適用します。 Oracle Hyperion Financial Close Management の場合、メンテナンス・リリースの適用がサポートされているのはリリース 11.1.2.1 および 11.1.2.2 以降のみです。
11.1.1.4.x	リリース 11.1.2.3 にアップグレード。
リリース 11.1.1.0.x から 11.1.1.3.x	リリース 11.1.1.4 にメンテナンス・リリースを適用した後、リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。
リリース 9.3.3.x	リリース 11.1.2.2 にアップグレードした後、リリース 11.1.2.3 にメンテナンス・リリースを適用します。

アップグレード・パスのリリース元	リリース 11.1.2.3 へ
複数のリリースが含まれている環境。1 つの Oracle Hyperion Shared Services のインスタンスが含まれている環境、または 2 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境も該当します	Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM システム製品のアップグレードの章にある、複数リリース環境からのアップグレードに関する項を参照してください。

注意: リリース 9.2.0.3+、9.3.0.x、9.3.1.x (Essbase 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 および 9.3.1.7 以外) または 11.1.1.x から始める場合、まずリリース 11.1.1.3 にアップグレードしてから、リリース 11.1.1.4 にメンテナンス・リリースを適用し、リリース 11.1.2.3 にアップグレードすることをお勧めします。前のリリースから開始する場合、開始するリリースからのアップグレードを直接サポートしている最高レベルのリリースにアップグレードすることをお勧めします。

Essbase と Shared Services との間のセキュリティの同期は、リリース 9.3.1.4.1 以降の Essbase リリース 9.3 では削除されていました。ただし、Essbase および Shared Services リリース 11.1.1.3 では、セキュリティ情報は同期されます。このため、Essbase リリース 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 または 9.3.1.7 を使用している場合、まずリリース 9.3.3 にすべての製品をアップグレードしてから、リリース 11.1.2.2 にアップグレードし、リリース 11.1.2.3 にメンテナンス・リリースを適用する必要があります。

このリリースで修正された問題

このセクションには、リリース 11.1.2.3.000 で修正された問題が含まれています。以前のリリースで修正された問題のリストを確認するには、Defects Fixed Finder を

使用します。このツールでは、所有する製品および現在の実装のリリースを確認できます。1回のクリックで、修正された問題の説明とそれに関連するプラットフォームおよびパッチ番号を含むカスタマイズされたレポートが、ツールによってすばやく生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

- 15856456 -- **データ・ロード**。データ値の有効桁数が多いデータベース上で Oracle Call Interface (OCI)を使用するデータ・ロードは次のエラーを返します: データ列に無効なメンバー [member] があります。
- 14210803, 12629034 -- **データ・ロード**。Oracle Call Interface (OCI)を使用する SQL データ・ロードがデータのロードに失敗し、エラーを戻すのにも失敗します。
- 14252473 -- **Essbase サーバー**。Linux で、アクティブなユーザーが接続しているときにアプリケーションの削除要求が発行された場合、Essbase が異常終了します。
- 14031563 -- **MDX**。複数の次元から多数のリーフ・メンバーを表示するレポートを実行すると、エラー・メッセージが戻されます: 内部エラー: クエリーが割り当てているメモリーが大きすぎるため実行できません (4GBを超えています)。クエリーの割当ては制限値を超えています。。
- 15880564 -- **Essbase エージェント**。AIX で、Essbase エージェントが MaxL 表示セッション操作中に応答を停止し、アプリケーションによって .xcp ファイルが作成されます。
- 14710347 -- **グリッド**。ログ・ファイル内のユーザー名にスペースが含まれている場合、Essbase を再起動すると、SSAUDIT トランザクション・ログ・ファイルの行エントリの番号が再設定されます。
- 14618630 -- **グリッド**。グリッドに(見出し行ではなく)タイトル行のみが含まれ、その行がデータ行の前に終了する場合、SSAUDIT トランザクション・ログ・ファイルでは「ロックおよび送信」更新は記録されません。
- 15884510, 16168918 -- **集約ストレージ**。集約ストレージ・アプリケーションで、アウトラインに CASE/WHEN 式を含む MDX 式があるデータベースに対するクエリー中に応答が停止します。
- 14189474 -- **アウトライン API**。アウトライン API 関数 EssOtlQueryMembersByName が、重複したメンバー・アウトライン内の共有メンバーに対して誤った親名および一意の名前を返します。
- 16178344 -- **MDX**。CrossJoin 内に次元シグネチャの不一致が含まれる MDX クエリー中に Essbase アプリケーションが異常終了します。
- 14658729 -- **API**。Windows 2008 R2 (64 ビット)上で実行されている Essbase API プログラムがメモリーを大量に消費します。
- 14844850 -- **MaxL シェル**。ネストされた MaxL スクリプトの実行中に MaxL シェルが異常終了します。このスクリプトでは、正しく処理されなかったエラー条件の後に埋込みスクリプトが続いていました。
- 14209988 -- **MDX**。集約ストレージ・データベースに対する Leaves 関数を含むカスタム計算を実行すると、Essbase が応答を停止し、「ネットワーク・エラー [10054]: データを受信できません。」を返します。

- 12949431 -- レポート・ライター。構文が正しくないレポート・スクリプトを実行すると、アプリケーションが応答を停止します。
- 14669283 -- 計算。時間次元上に透過パーティションが定義されている場合、クエリーがカバーするデータ・ブロックのターゲット上にデータが存在すると、属性に対する動的時系列計算が#Missing を返します。この動作は、essbase.cfg ファイルに TARGETTIMESERIESOPT 構成設定が指定されていない場合に発生します。
- 13995902 -- 計算。メンバー式で使用する場合、アプリケーションを再起動しないと@DATEPART 計算関数でメジャー次元内のメンバーの値が更新されません。
- 14103464 -- 計算。Essbase の負荷が重い場合、起動中または特定の計算中にアプリケーションが異常終了します。
- 14301062 -- Essbase サーバー。MaxL を使用して可変属性を含むアウトラインをエクスポートすると、Essbase サーバーが異常終了します。
- 14538369 -- Essbase サーバー。Essbase アプリケーションまたはデータベースが指定されていない MDX スクリプトを実行すると、Essbase サーバーが異常終了します。
- 14228984 -- MDX。次元プロパティおよび計算メンバーで PROPERTY_EXPR MDX プロパティが使用されている場合、無許可のデータにアクセスできます。
- 13906119 -- MaxL。暗号化の際に deploy MaxL ステートメントで解析エラーが発生します。
- 13883641 -- 計算。アウトライン内のメンバー名に 1 つの単一引用符が含まれる場合、DATAEXPORT 計算コマンドで 2 つの単一引用符を含むようにメンバー名が変更されます。
- 14221692 -- パーティション。パーティション領域を含む MDX クエリーを実行すると、透過パーティションのターゲットである集約ストレージ・データベースが異常終了します。
- 14278594 -- パーティション。透過パーティションのターゲット集約ストレージ・データベース上にフィルタ・ユーザーが含まれる MDX クエリーを実行すると、Essbase サーバーが異常終了します。
- 15845424 -- パーティション。パーティション領域で使用されるメンバー名にドル記号(\$)が含まれている場合、Essbase で透過パーティションが作成されません。
- 11839965 -- MaxL。複数のデータ・ロード・バッファを持つ集約されたストレージ・データベースをターゲットとする暗号化 MaxL スクリプトを実行すると、Essbase で最初のバッファが誤って削除されます。
- 13483901 -- MaxL。ドリルスルー URL を作成する暗号化 MaxL スクリプトを実行すると、Essbase で解析エラーが発生します。
- 14498391 -- パーティション。ターゲット・パーティション更新可能オプションが選択されていない場合、複製パーティションに対する計算が機能しません。

既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです。

- 16618139、16515442 -- **高可用性**。Oracle Hyperion Foundation Services データベースが、JDBC URL 接続文字列で Oracle Real Application Clusters (RAC) データベースの複数のノードが指定されている RAC 上で構成されている場合、Essbase がフェイルオーバー・モードでの起動に失敗します。

たとえば、Foundation Services データベースが次の非 SCAN ベースの RAC JDBC URL で定義されているとします:

```
jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(ADDRESS_LIST=(LOAD_BALANCE=on)
(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=myrachost1) (PORT=1521)) (ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)
(HOST=myrachost2) (PORT=1521))) (CONNECT_DATA=(SERVICE_NAME=orcl)))
```

Essbase がアクティブ/パッシブ・フェイルオーバー・クラスタとして高可用性モードで構成されている場合、Essbase は起動に失敗し、次のようなエラーになります:

```
ESSBASE / Error (1320059) Essbase error due to dbName and dbPort property missing
in the Shared Services registry database.
The database Host is [myepmsystem.oracle.com]. If you are using Oracle RAC as the
database, contact your database
administrator to manually configure the database connection.
```

回避策:

- **Oracle 11gR2 以上:** Foundation Services の Oracle データベースのバージョンが 11gR2 以上の場合は、SCAN ベースのメソッドを使用して RAC を構成し、対応する SCAN 仮想ホスト名を使用するように Foundation Services データベースを再構成します。

この接続メカニズムは、単一ノードの Oracle データベースに接続する場合と同じです。Essbase ではこの方法がサポートされています。

- **Oracle 11gR2 より前:** Oracle Hyperion Foundation Services の Oracle データベースのバージョンが 11gR2 より前の場合、プライマリ RAC ノードが活動状態であるかぎりこのタイプの接続は機能しますが、Essbase は非 SCAN ベースの RAC 接続をサポートしません。

次の手順に従って、Essbase がプライマリ RAC ノードで動作するようにします:

次の手順では、epmsys_registry_script は epmsys_registry.bat (Windows) ファイルおよび epmsys_registry.sh (UNIX) ファイルを指します。

1. EPM_ORACLE_INSTANCE\bin フォルダでコマンド・プロンプトを開きます。

Windows の例:

```
C:\Oracle\Hyperion\Middleware\user_projects\epmsystem1
```

2. DATABASE_CONN コンポーネント(dbJdbcUrl など)のプロパティを EPM System レジストリに表示するには、次のコマンドを実行します:

```
epmsys_registry_script  
view FOUNDATION_SERVICES_PRODUCT/DATABASE_CONN
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat view FOUNDATION_SERVICES_PRODUCT/  
DATABASE_CONN
```

3. プロパティが存在する場合は、dbName プロパティの一意の ID を書き留めます。

例:

```
1f906cf29b5be305S4edbf22713d8d835e3aS7ff3
```

4. プライマリ RAC ノード・ホストを表す localhost_name プロパティが正しくない場合は、次のコマンドを実行します:

```
epmsys_registry_script  
updateproperty "#  
ID  
/@localhost_name"  
OracleRACNode1DbHost
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat updateproperty  
"#1f906cf29b5be305S4edbf22713d8d835e3aS7ff3/@localhost_name"  
myracdb1.oracle.com
```

プロパティが更新されたことを示すメッセージが表示されます。

5. dbName プロパティが存在しない場合は、次のコマンドを実行します:

```
epmsys_registry_script  
addproperty "#  
ID  
/@dbName"  
OracleDbServiceName
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat addproperty
```

```
"#1f906cf29b5be305S4edbf22713d8d835e3aS7ff3/@dbName" orcl
```

プロパティが追加されたことを示すメッセージが表示されます。

6. dbPort プロパティが存在しない場合は、次のコマンドを実行します:

```
epmsys_registry_script  
addproperty "#  
ID  
/@dbPort"  
OracleDbPort
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat addproperty  
"#1f906cf29b5be305S4edbf22713d8d835e3aS7ff3/@dbPort" 1521
```

プロパティが追加されたことを示すメッセージが表示されます。

7. DATABASE_CONN コンポーネントのプロパティの変更を確認するには、次のコマンドを再実行します:

```
epmsys_registry_script  
view FOUNDATION_SERVICES_PRODUCT/DATABASE_CONN
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat view FOUNDATION_SERVICES_PRODUCT/  
DATABASE_CONN
```

8. Essbase を開始します。

注意: 13974353、13944879 -- Essbase フェイルオーバー・クラスタは、構成済のプライマリ RAC ノードが使用可能であるかぎり機能します。プライマリ RAC ノードが停止すると、Essbase が停止し、起動に失敗します。プライマリ RAC ノードが停止しているときに Essbase を起動する必要がある場合、一時的な回避策として、EPM System レジストリ内のデータベース・プロパティを、セカンダリ RAC ノードを指すように変更します。

次の手順に従って、Essbase がセカンダリ RAC ノードで動作するようにします:

次の手順では、epmsys_registry_script は epmsys_registry.bat (Windows) ファイルおよび epmsys_registry.sh (UNIX) ファイルを指します。

1. EPM_ORACLE_INSTANCE\bin フォルダでコマンド・プロンプトを開きます。

Windows の例:

C:\Oracle\Hyperion\Middleware\user_projects\epmsystem1

2. DATABASE_CONN コンポーネント(dbJdbcUrl など)のプロパティを EPM System レジストリに表示するには、次のコマンドを実行します:

```
epmsys_registry_script  
view FOUNDATION_SERVICES_PRODUCT/DATABASE_CONN
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat view FOUNDATION_SERVICES_PRODUCT/  
DATABASE_CONN
```

3. プロパティが存在する場合は、dbName プロパティの一意の ID を書き留めます。

例:

```
1f906cf29b5be305S4edbf22713d8d835e3aS7ff3
```

4. 次のコマンドを使用して、プライマリ・データベース・ホストを指す localhost_name プロパティをセカンダリ・データベース・ホストに変更します。

```
epmsys_registry_script  
updateproperty "#  
ID  
/@localhost_name"  
OracleRACNode2DbHost
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat updateproperty  
"#1f906cf29b5be305S4edbf22713d8d835e3aS7ff3/@localhost_name"  
myracdb2.oracle.com
```

プロパティが更新されたことを示すメッセージが表示されます。

5. dbName プロパティを変更する必要がある場合(セカンダリ RAC ノードの SERVICENAME がプライマリ RAC ノードと異なる、プライマリ RAC ノードの SID と異なるセカンダリ RAC ノードの SID を使用して接続するなど)は、次のコマンドを実行します:

```
epmsys_registry_script  
updateproperty "#  
ID  
/@dbName" OracleDbServiceName
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat updateproperty
"#1f906cf29b5be305S4edbf22713d8d835e3aS7ff3/@dbName" orcl2
```

プロパティが更新されたことを示すメッセージが表示されます。

6. セカンダリ RAC ノードの dbPort プロパティがプライマリ RAC ノードと異なる場合は、次のコマンドを実行します:

```
epmsys_registry_script
addproperty "#
ID
/@dbPort"
OracleDbPort
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat addproperty
"#1f906cf29b5be305S4edbf22713d8d835e3aS7ff3/@dbPort" 1522
```

プロパティが追加されたことを示すメッセージが表示されます。

7. DATABASE_CONN コンポーネントのプロパティの変更を確認するには、次のコマンドを再実行します:

```
epmsys_registry_script
view FOUNDATION_SERVICES_PRODUCT/DATABASE_CONN
```

Windows の例:

```
epmsys_registry.bat view FOUNDATION_SERVICES_PRODUCT/
DATABASE_CONN
```

8. Essbase を開始します。

注: この一時的な回避策は、セカンダリ RAC データベース・ノードが活動状態であるかぎり有効です。後でセカンダリ RAC ノードが停止し、Essbase が動作すると予想される場合は、この同じ手順に従って、RAC データベース内の最も優先される活動状態のノードを指すように EPM System レジストリ内のデータベースを再構成します。

- 16457613 -- TARGETTIMESERIESOPT 構成設定が、透過パーティションに対するクエリーの最適化に使用されます。この構成設定が essbase.cfg ファイルで設定され、透過パーティションが時間次元で定義されている場合、ターゲット・データベースに存在するデータに対する動的時系列計算は #Missing を返すか、または結果が正しくありません。この動作が発生するのは、このオプショ

ン構成設定を使用した D-T-S 計算は透過パーティションのソース・データベースから常に抽出されるためです。

- 16457664 -- ターゲットにクエリーの対象になるデータ・ブロックがない透過パーティションを含むデータベースでは、属性に対する動的時系列計算は #Missing を返します。この動作は、essbase.cfg ファイルに TARGETTIMESERIESOPT 構成設定が指定されていない場合に発生します。
- 13457388 -- 64 ビットの Windows Server 2008。64 ビットの Windows Server 2008 上で 64 ビットの Essbase を実行すると、一部の Essbase サーバー名が認識されません。この問題は、64 ビットの Windows Sever 2008 で IPv6 オプションが無効になっている場合に発生します。

回避策: IPv6 を有効にします。IPv6 を有効なまま(デフォルト)にしておくことをお勧めします。

- 13637169 -- AIX (64 ビット)。ulimit のデータ・セグメント・サイズが小さすぎると、アプリケーションが異常終了します。データ・セグメント・サイズは無制限に設定することをお勧めします。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の 64 ビット AIX でのユーザー制限の設定に関する項を参照してください。
- 13624319 -- HP-UX。HP-UX 11.23 上で実行されている Essbase サーバーはアプリケーションを作成できません。エラー・メッセージ:

```
/usr/lib/hpux64/dld.so: Unsatisfied code symbol '__cxa_get_exception_ptr' in
load module
'
```

```
EPM_ORACLE_HOME
```

```
/products/Essbase/EssbaseServer/bin/libessasosm.so'.
```

```
[Tue Jan 24 11:23:08 2012]Local/ESSBASE0///Error(1052003)
Timed out reading from server
```

```
[Tue Jan 24 11:23:08 2012]Local/ESSBASE0///Error(1054001)
Cannot load application Apg6641 with error number [1052003] - see server log
file
```

```
[Tue Jan 24 11:23:08 2012]Local/ESSBASE0///Error(1054067)
Internal error
```

回避策: HP-UX 11.23 はサポートされているオペレーティング・システムではありません。サポートされている HP-UX のバージョンについては、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 動作保証マトリックス (<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>)を参照してください。

- 16453364 -- execute calculation MaxL ステートメントを含む計算文字列を使用すると、Essbase エージェントの実行が遅くなり、使用不可に見えます。この動

作を回避するには、計算文字列をサーバーベースの計算スクリプトとして保存し、保存された計算スクリプトを実行します。

- 13847733 -- **アップグレード**。Essbase を新しいマシンにアップグレードする場合、サンプル・アプリケーションを移動できません。新しいサンプル・アプリケーションが新しいマシンにインストールされます。
- 10096616、13084180 -- **SSL**。SSL を有効にすると、一部の Essbase 操作を実行する際のパフォーマンスが低下します。
- 11725513、13404757 -- **カーネル**。AIX 5.3 が稼働するサーバー上で MaxL シェルから Essbase サーバーにログインすると、次のエラー・メッセージが返される可能性があります:

```
MAXL> login essexer password;
WARNING - 1040152 - Failed to load ZT library
WARNING - 1040156 - SSL initialization failed with error code [1040152]
OK/INFO - 1051034 - Logging in user [essexer]
OK/INFO - 1051035 - Last login on Monday, February 07, 2011 2:57:58 PM.
OK/INFO - 1241001 - Logged in to Essbase.
```

このエラーは SSL の開始に関連したもので、Essbase サーバーの起動時または ESSCMD の実行時にも発生する可能性があります。

回避策: Essbase サーバーと Essbase クライアントがインストールされているコンピュータに AIX 5.3 カーネル拡張アップデートを適用します。

- 10159576、12618625 -- **カーネル**。このリリースでは、64 ビット・サーバーがより大きなキャッシュ・サイズに対応できるように拡張されました。そのため、古いクライアント(9.3.x、11.1.1.x または 11.1.2.1)をこのバージョンの 64 ビット・サーバーとともに使用する場合は、次の機能が無効になります:

C-API:

- EssGetDatabaseState - データ・キャッシュ、データ・ファイル・キャッシュまたはインデックス・キャッシュに対してゼロを表示します
- EssSetDatabaseState - データ・キャッシュ、データ・ファイル・キャッシュまたはインデックス・キャッシュのサイズを設定できません
- EssGetDatabaseInfo - データ・キャッシュ、データ・ファイル・キャッシュまたはインデックス・キャッシュに対してゼロを表示します

MaxL

- alter database DBS-NAME set data_cache_size SIZE-STRING
- alter database DBS-NAME set data_file_cache_size SIZE-STRING
- alter database DBS-NAME set index_cache_size SIZE-STRING

ESSCMD:

- GETDBSTATE - データ・キャッシュ、データ・ファイル・キャッシュまたはインデックス・キャッシュに対してゼロを表示します

- SETDBSTATE-データ・キャッシュ、データ・ファイル・キャッシュまたはインデックス・キャッシュのサイズを設定できません
- GETDBINFO-データ・キャッシュ、データ・ファイル・キャッシュまたはインデックス・キャッシュに対してゼロを表示します

データ・マイニング。 Essbase および Oracle Essbase Administration Services では、データ・マイニングはサポートされなくなりました。データ・マイニング機能については、Oracle Database Enterprise Edition のオプションである Oracle Data Mining を検討してください。

- 16403153 -- ID が 32768 より大きいテキスト・リスト値をインポートするとエラーになります。
- 12757320、11875089、12757319 -- **フィルタ。** Oracle Hyperion Shared Services Console で「委任されたユーザー管理」オプションが有効になっている場合、Planning と Essbase との同期を取るために Oracle Hyperion Planning 内から「セキュリティ・フィルタのリフレッシュ」を実行すると、プロビジョニングされたユーザーのフィルタが作成されません。

回避策: 「Delegated User Management」を無効にして Planning から「セキュリティ・フィルタのリフレッシュ」を再度実行します。

- 12757316、11875352 -- **フィルタ。** 「委任されたユーザー管理」オプションが有効で、複数の外部リポジトリにユーザーが存在する場合、Oracle Hyperion Planning と Oracle Hyperion Shared Services および Essbase との同期を取るために Planning 内から「セキュリティ・フィルタのリフレッシュ」を実行すると、重複したユーザー・エントリが作成されることがあります。
- 11800146、10623580 -- **カーネル。** 直接 I/O は Linux でサポートされていません。
- 12884791 -- **コミット・アクセスのロールバック。** コミット・アクセス・モードでは、トランザクション・ロールバック中にデータ・ファイルの空き領域のリークが発生する可能性があります。

ドキュメントの更新事項

EPM System 製品ドキュメントへのアクセス

各 EPM System 製品ガイドの最新版は、OTN Web サイトの「EPM System Documentation」領域(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)からダウンロードまたは表示できます。Oracle Enterprise Performance Management System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)も使用できます。ここには、EPM Supported Platform Matrices、My Oracle Support、およびその他の情報へのリンクも含まれています。

配置関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個々の製品ガイドは、Oracle Technology Network Web サイトからのみダウンロードできます。

PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDF ファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットを HTML バージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

ランタイム代替変数文字列

16675163 -- 次の情報によって、Oracle Essbase 11.1.2.3 ドキュメント内のランタイム代替変数の文字列の構文に関する情報が更新されます。

リストで指定されているランタイム代替変数を使用して保管されている計算スクリプトを実行する場合、リストはキー/値ペアの文字列です。文字列を一重引用符で囲み、キー/値ペアをセミコロン(文字列の最後のランタイム代替変数の後、および末尾の一重引用符の前のセミコロンを含む)で区切る必要があります。

ランタイム代替変数文字列の更新例:

```
'a=100;b=@CHILDREN("100");c="Actual"->"Final";d="New York";'
```

MaxL ステートメントの更新例:

```
execute calculation Sample.Basic.Calc3 with runtimesubvars 'a=100;b=50;';
```

ドキュメント・フィードバック

製品のドキュメントに関するフィードバックは、次の電子メール・アドレスに送信してください: EPMdoc_ww@oracle.com。

次のソーシャル・メディア・サイトの EPM 情報開発をフォローしてください:

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- Twitter - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Linked In - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。この Readme ファイルは HTML 形式で入手できます。

著作権情報

Essbase Readme, 11.1.2.3.000

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。